

雪を生かした活動を全校に広げる

北海道は10月から初雪を観測する地域も多く、三学期には生活科だけでなく、総合的な学習の時間や学校行事などで雪や氷を生かした活動が行われている学校も少なくないと思います。

ここでは、こうした活動を創り出すためのポイントや実践について紹介します。

ここが
ポイント

どの教育活動で実践できるか考える

まず、雪などの北海道の気候を生かした活動が、どの教育課程で実践できそうか考えます。

生活科では屋外で季節の変化を体感しながら、雪や氷を使ってダイナミックに活動を展開できます。総合的な学習の時間では、結晶の観察や冬期間の樹木や動物の生態を学んだり、都市部での除雪や再利用などのテーマを追究したりして、調べる活動や思考・判断する学習を展開できます。

また、雪や氷を生かした地域行事を学習に取り入れる場合（雪まつりや氷瀑まつりに参加する）もあります。

北海道では屋外で体を動かす機会を工夫しています。スキーやスケート学習、スノーホッケーなどの運動を行う体育の学習の他にも、「雪」をテーマに1年生から6年生までカリキュラムをつくることが可能です。例えば、全学年で雪像づくりやキャンドル制作に挑戦したり、異学年と交流することを目的にした雪中運動会をしたりします。

ここが
ポイント

PTAと連携した冬の活動

写真の学校では、地域やPTAと連携して、以前から「アイスキャンドルを灯す会」を続けています。子どもたちは、生活科などのカリキュラムで種々のアイスキャンドルをつくり、校門など学校前の敷地に積み上げられた雪山に飾ります。地域の方たちも家庭で制作したアイスキャンドルを持参して飾ります。PTAの皆さんには、お汁粉やホットココアを準備したり、ろうそくを準備したりします。そして、会の当日、キャンドルに点灯します。事前に保護者と一緒に参加できるか確認しているので、夕方の点灯を子どもも見ることができます。

夜空に輝く光は地域の方や近くを走る列車の乗客の心を和ませています。

Active

冬を楽しむ全校で取り組む活動として、「キャンドル制作→点灯」「雪像などスノー・ワンダーランド制作（保護者も招待）」「地域の雪まつりに参加」が挙げられます。

また、地域の幼稚園や保育園と交流する活動、1、2年生が一緒に何かをする活動も考えれます。

さらに、児童会（委員会）が企画した外遊び集会も考えられますし、教職員が企画した全校外遊びの日を行ってもよいです。全校外遊びでおススメなのは、「雪中的当て」「雪積み大会」「スノーノー・ビーチフラッグ」「制限時間内雪だるま作り大会」などです。

北海道の冬は厳しい寒さのため屋内にいがちです。特に高学年の女子が運動する機会が減ってしまいます。ですから、体力向上の取組として、運動習慣を付ける試みとして、生活科で学習する雪遊びを全校に広げてみませんか。



あるある NG!

学校は様々な教職員が協力し合って教育計画を進めています。雪を生かした活動を全校で行う計画を実現するには、校内で次のような状況共有と調整が必要です。

- ・**教頭先生へ** →「いつ」「どの場所で」「どれくらいの期間」を伝えます。
地域の方と一緒に行うなら、「学校として」教頭先生に調整していただく部分があります。
- ・**担任外の先生** →探検活動と同様、補助が必要か決めてから、相談します。
教務主任の先生には、日程調整をしていただきます。
- ・**PTA担当の先生** →活動のどの部分にPTAの協力をしていただけるのかを予め校内の担当の先生と打ち合わせます。
- ・**用務員** →屋外の活動は除雪をお願いしたり、危険個所に近寄らない準備（ロープ、立て札）をしていただいたらします。

もし、こうした情報共有が校内で行われないと、せっかくの素敵な取組が次年度にはできなくなってしまいます。良い取組を継続的に進めていくために事前の計画、連絡、相談は大切です。